

令和5年度

苫小牧市立病院経営指標評価報告書

令和5年11月

苫小牧市立病院事業経営評価委員会

目 次

1	はじめに	1
2	経営指標に対する点検及び評価結果	
(1)	委員会としての具体的な評価手法	2
(2)	委員会評価	2
	苦小牧市立病院経営指標評価項目 1	4
	苦小牧市立病院経営指標評価項目 2	
(1)	収支改善に係るもの	5
(2)	経費削減に係るもの	5
(3)	収入確保に係るもの	6
(4)	経営の安定性に係るもの	7
	苦小牧市立病院経営指標評価項目 3	8
	【附属資料】	
	委員名簿	9
	委員会の開催状況等	10

1 はじめに

本委員会は、令和4年2月に策定された「苫小牧市立病院経営指標」（以下「経営指標」という。）の各種指標について点検及び評価するとともに、同年3月に総務省から示された「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」に基づき、現在策定作業中である「苫小牧市立病院経営強化プラン」（以下「経営強化プラン」という。）の策定及び見直しの過程において、専門的な意見を提言することを目的として、医療関係、経済界、学識経験者、市民団体からなる外部委員で構成された評価委員会である。今年度は、経営指標の令和4年度実績値について、点検及び評価、並びに意見を求められた。

令和4年度は、新型コロナウイルスのオミクロン株の派生株への置き換わりにより、これまでを大幅に超える規模の感染拡大の波が繰り返し起きたため、前年度に引き続き、感染状況によって医療体制が大きな影響を受けた一年となった。

このような状況のなかで、コロナ禍以前と比較して医業収益が大幅に減少したことなど、経営指標に定められた数値目標は、平常時と大きく乖離しているが、本委員会では、あらかじめ定められた評価基準に基づき、各種指標を評価した。

苫小牧市立病院は、感染状況に応じ、柔軟かつ機動的に医療提供体制を調整しながら、通常診療を一部制限してコロナ対応を積極的に行ったほか、北海道、苫小牧市医師会、圏域の医療機関などと連携し、コロナ禍であっても中断することができない救急医療や周産期医療などの公立病院として重要な役割を十分に果たした。

令和5年5月には、新型コロナウイルスの分類が感染症法上の5類に移行し、一つの区切りを迎えたものの、当面の間、コロナ対応を継続しながら一般診療を行わざるを得ず、医療を取り巻く状況は依然として厳しいが、東胆振医療圏域の中核病院として、高度・政策医療の充実に努めるとともに、関係機関との連携を強化し、実効性のある経営強化プランの策定と経営基盤強化に向けた更なる努力を期待する。

令和5年11月

苫小牧市立病院事業経営評価委員会

委員長 豊田 健一

2 経営指標に対する点検及び評価結果

(1) 委員会としての具体的な評価手法

苫小牧市立病院が令和5年10月に策定した「苫小牧市立病院経営指標自己評価」（以下「病院評価」という。）に示された自己評価について、病院事務局に項目ごとに評価理由等の説明を求め、その内容を審議した。

評価基準は病院評価と同じものを用いることとし、特に委員会として特筆すべき事項を付した。

[評価基準]

A	経営指標の目標値を大幅に上回り、特に優れた成果が認められる。
B	経営指標の目標値を達成している。
C	経営指標の目標値をおおむね達成している。
D	経営指標の目標値を下回っており、改善の余地がある。
E	経営指標の目標値を大幅に下回っており、大幅な改善が必要。

(2) 委員会評価

[総評]

コロナ対応を優先するために通常診療を制限したことなど、コロナ禍という特殊な状況下における実績値であるため、評価が難しい指標も見られたが、苫小牧市立病院が感染症指定医療機関として、新型コロナウイルス感染症患者の積極的な受入れと高度急性期医療の提供を両立したこと、並びに感染症対策に係る補助金を活用し、経営状況を悪化させることなく安定的な医療提供体制を維持したことを高く評価する。

委員会評価は、すべての項目において評価基準に定める「C」評価以上としており、一項目のみ病院評価と異なる評価を付した。

コロナ感染症の影響により社会経済情勢が大きく変化したことや、感染拡大の状況によって医療提供体制が大きく変動することなど、先行きが不透明な要素が多くある中で、中期計画である経営強化プランの策定は困難な側面もあるが、公立病院としての役割・機能を発揮し続けることができるよう、経営強化に向けた取組を病院全体で推進することを期待する。

〔個別項目の評価〕

委員会審議の結果、病院評価と違う評価としたもの、また、特に評価・意見を付すこととしたものについて、以下に示す。

評価項目2 経営の効率化に係る項目

(3) 収入確保に係るもの

- ・番号16 「病床利用率」 「B」評価

新型コロナウイルス感染症の拡大による病棟休止が大きく影響し、目標値を下回ったものの、通常診療を一部制限してコロナ対応を積極的に行った結果であり、コロナによる休床を除いた数値を加味して、病院の評価は「C」としていたが、委員会評価としては「B」とする。

評価項目3 収支の状況

- ・番号27 「病院事業収益」 「A」評価

- 番号29 「経常収支」 「当年度純損益」 「A」評価

感染拡大による病棟休止などの影響によって、受入患者数が目標値を下回り、入院収益がコロナ禍以前と比較して減少しているものの、国及び北海道の政策に対応し、感染症対策に係る補助金を活用しながら事業を継続することで、経営状況を悪化させずに地域に貢献したことを評価する。

コロナ後を見据え、医療従事者を確保しながら、安定した病院運営の具体策に期待する。

個々の評価項目に対する本委員会の評価及び意見の一覧については、4～8ページに示した。

なお、評価基準に基づく評価項目ごとの結果は以下のとおり。

区 分	A	B	C	D	E	合 計
評価項目1	1	5	1	0	0	7
評価項目2	2	14	3	0	0	19
評価項目3	4	3	0	0	0	7
合 計	7	22	4	0	0	33

苫小牧市立病院経営指標評価項目

1 医療機能等指標に係る項目

番号	項目	4年度 目標値	4年度 実績値	病院 評価	苫小牧市立病院事業経営評価委員会評価・意見	
					評価	意見
1	紹介患者数(人)	7,500	7,548	B	B	事務局から説明を受け、内容について協議・確認し、病院評価と同評価とする。
2	逆紹介(診療情報提供) 件数(件)	4,900	6,442	A	A	
3	紹介率(%)	46.0	47.7	B	B	
4	逆紹介率(%)	40.0	44.8	B	B	
5	時間外救急患者数 (件)	4,200	4,130	C	C	
<p>【参考】 一次救急～夜間・休日急病センターや休日当番の医療機関などで行われる入院や手術を伴わない医療 二次救急～入院や手術を要する症例に対する医療</p>						
6	分べん取扱い件数(件)	680	684	B	B	事務局から説明を受け、内容について協議・確認し、病院評価と同評価とする。
7	手術件数(件) (うち全身麻酔手術 (件)	2,200 (1,300)	2,237 (1,336)	B	B	

2 経営の効率化に係る項目

(1) 収支改善に係るもの

番号	項目	4年度 目標値	4年度 実績値	病院 評価	苫小牧市立病院事業経営評価委員会評価・意見	
					評価	意見
8	経常収支比率(%) ※算出式 = (経常収益 ÷ 経常費用) × 100 【参考】 経常収益 = 医業収益 + 医業外収益 経常費用 = 医業費用 + 医業外費用 経常収支 = 経常収益 - 経常費用	101.7	108.6	A	A	事務局から説明を受け、内容について協議・確認し、病院評価と同評価とする。
9	医業収支比率(%) ※算出式 = (医業収益 ÷ 医業費用) × 100 【参考】 医業収支 = 医業収益 - 医業費用	74.3	78.5	B	B	事務局から説明を受け、内容について協議・確認し、病院評価と同評価とする。
10	資金不足比率(%) ※算出式 = (資金不足額 ÷ 事業規模) × 100 【参考】 資金不足額 = (流動負債 + 建設改良費等以外の経費の財源に充てるために起こした地方債の現在高 - 流動資産) - 解消可能資金不足額 事業の規模 = 医業収益の額 - 受託工事収益の額	-	-	B	B	事務局から説明を受け、内容について協議・確認し、病院評価と同評価とする。

(2) 経費削減に係るもの

番号	項目	4年度 目標値	4年度 実績値	病院 評価	苫小牧市立病院事業経営評価委員会評価・意見	
					評価	意見
11	職員給与費対 医業収益比率(%) ※算出式 = (職員給与費 ÷ 医業収益) × 100	62.5	60.0	B	B	事務局から説明を受け、内容について協議・確認し、病院評価と同評価とする。
12	材料費対医業収益比率 (%) (うち薬品費比率 (%)) ※算出式 = (材料費 ÷ 医業収益) × 100 ※算出式 = (薬品費 ÷ 医業収益) × 100	26.1 (13.8)	23.7 (12.4)	B	B	事務局から説明を受け、内容について協議・確認し、病院評価と同評価とする。
13	後発医薬品指数(%) ※算出式 = 後発医薬品の数量 ÷ { (後発医薬品のある先発医薬品の数量) + (後発医薬品の数量) } × 100	90.0	94.0	B	B	事務局から説明を受け、内容について協議・確認し、病院評価と同評価とする。

(3) 収入確保に係るもの

番号	項目	4年度 目標値	4年度 実績値	病院 評価	苫小牧市立病院事業経営評価委員会評価・意見	
					評価	意見
14	年間延入院患者数(人)	74,800	73,503	C	C	事務局から説明を受け、内容について協議・確認し、病院評価と同評価とする。
15	入院収益 (百万円、税抜)	4,890	5,105	B	B	
16	病床利用率(%)	53.6	52.7	C	B	実績値が目標値を若干下回っているものの、感染拡大の状況に応じて病棟を休止し、コロナ対応を行った結果であり、休止病床を除いた病床利用率が66.5%であること考慮して、病院評価は「C」としていたが、委員会としては「B」とする。
※算出式 = (年間延入院患者数 × 100) ÷ (稼働病床数 × 実日数)						
17	入院患者1人1日当たり 診療収入(円)	65,617	69,455	B	B	事務局から説明を受け、内容について協議・確認し、病院評価と同評価とする。
※算出式 = 入院収益 ÷ 年間延入院患者数						
18	平均在院日数(日)	9.2	9.2	B	B	事務局から説明を受け、内容について協議・確認し、病院評価と同評価とする。
※算出式 = 年間延入院患者数 ÷ { (入院件数 + 退院件数) ÷ 2 }						
19	年間延外来患者数(人)	171,800	171,464	C	C	事務局から説明を受け、内容について協議・確認し、病院評価と同評価とする。
20	外来収益 (百万円、税抜)	2,641	2,715	B	B	
21	外来患者1人1日当たり 診療収入(円)	15,401	15,835	B	B	
※算出式 = 外来収益 ÷ 年間延外来患者数						

(4) 経営の安定性に係るもの

番号	項目	4年度 目標値	4年度 実績値	病院 評価	苫小牧市立病院事業経営評価委員会評価・意見	
					評価	意見
22	医師数(人) (臨床研修医等も含む)	79	79	B	B	事務局から説明を受け、内容について協議・確認し、病院評価と同評価とする。
23	看護師数(人)	415	404	C	C	
24	企業債残高 (百万円)	8,310	8,292	B	B	
※企業債とは地方公営企業が施設の建設・改良等に要する資金に充てるために国などから借りるお金のこと						
25	一時借入金残高 (百万円)	0	0	B	B	事務局から説明を受け、内容について協議・確認し、病院評価と同評価とする。
26	累積資金収支 (百万円)	820	1,644	A	A	
※算出式＝流動資産－流動負債						

3 収支の状況

(単位：百万円、税抜き)

番号	収益的収支	4年度 目標値	4年度 実績値	病院 評価	苫小牧市立病院事業経営評価委員会評価・意見	
					評価	意見
27	病院事業収益	12,012	12,554	A	A	病棟の一部休止などの影響により、医業収益がコロナ禍以前と比較して低い水準である一方、コロナ関連の臨時的な補助金を活用し、経営状況を悪化させずに事業を継続したことを評価する。
	医業収益	8,309	8,610			
	入院収益	4,890	5,105			
	外来収益	2,641	2,715			
	その他	778	790			
	医業外収益	3,676	3,917			
	特別利益	27	27			
28	病院事業費用	11,915	11,655	A	A	事務局から説明を受け、内容について協議・確認し、病院評価と同評価とする。
	医業費用	11,190	10,966			
	職員給与費	5,197	5,169			
	材料費	2,169	2,039			
	経費	2,817	2,758			
	その他	1,007	1,000			
	医業外費用外	591	573			
特別損失	134	116				
29	経常収支	204	988	A	A	番号27に同じ
	当年度純損益	97	899			

(単位：百万円、税込み)

番号	資本的収支	4年度 目標値	4年度 実績値	病院 評価	苫小牧市立病院事業経営評価委員会評価・意見	
					評価	意見
30	資本的収入	809	794	B	B	事務局から説明を受け、内容について協議・確認し、病院評価と同評価とする。
	企業債	300	282			
	他会計負担金等	467	467			
	その他	42	45			
31	資本的支出	1,176	1,159	B	B	事務局から説明を受け、内容について協議・確認し、病院評価と同評価とする。
	建設改良費	357	349			
	企業債償還金	776	776			
	その他	43	34			
32	資本的収支	▲367	▲365	B	B	事務局から説明を受け、内容について協議・確認し、病院評価と同評価とする。
33	流動資産	2,824	3,736	A	A	事務局から説明を受け、内容について協議・確認し、病院評価と同評価とする。
	流動負債	2,004	2,092			
	うち企業債	866	866			
	単年度資金収支	107	931			
	累積資金収支	820	1,644			
	資金不足額	▲1,686	▲2,510			
資金不足比率	—	—				

※収支状況の数値については、公営企業の経営に当たっての留意事項について（総務省通知）の収支計画記載要領に基づき、収益的収支は税抜き、資本的収支は税込みで作成している。

【附属資料】

委員名簿

区 分		所 属	役 職	氏 名	
委 員	医 療 関 係	委員長	一般社団法人 苫小牧市医師会	副会長	豊 田 健 一
		副委員長	一般財団法人 ハスカッププラザ (苫小牧市保健センター)	事務局長	菅 原 真 一
			北海道胆振総合振興局 保健環境部苫小牧地域保健室 (苫小牧保健所)	次長	柴 田 みゆき
			室蘭市	病院事業管理者	新 井 一
	経 済 界		苫小牧信用金庫	本店 次長	今 野 佑 亮
			苫小牧商工会議所	中小企業相談所長 兼商工振興部長	遠 藤 和 盛
	学 識 経 験 者		北洋大学	教授 (学部長)	山 田 利 一
			高崎健康福祉大学	教授	木 村 憲 洋
	市 民 団 体		苫小牧消費者協会	副会長	伴 辺 久 子
	事 務 局	苫小牧市		副市長	山 本 俊 介
		市立病院		院長	松 岡 伸 一
			事務部長	佐々木 薫	
			事務部次長	桐 木 賢	
			経営管理課長	駿 河 まゆみ	
			地域医療連携室主幹	小 林 泰 賀	
			医事課長	梅 木 秀 俊	
			経営管理課長補佐	岡 路 大 輔	
			経営管理課副主幹	福 井 教 彦	
			医事課長補佐	西 村 政 昭	
	経営管理課財務係長	桑 島 敬 輔			

令和5年度 市立病院事業経営評価委員会 審議日程

1 評価委員会・市議会審議日程

日付	内容	備考
10/6	市議会決算委員会 経営指標【令和4年度決算反映】提示	
10月	第1回評価委員会（持ち回り開催） 経営指標自己評価等を提示、質問等の受付	委員に資料を提出
11/1	第2回評価委員会開催 経営指標自己評価の審議等	委員出席
11/15	第3回評価委員会開催 委員会評価作成及び決定	委員出席
11/28	副市長へ委員会評価報告書を提出	委員長、副委員長出席
12月	市議会厚生委員会 委員会評価報告書を提出	

2 評価委員会の開催場所等

	日時	場所
第1回	10月（持ち回り開催）	—
第2回	11月1日（水）18:30～	市立病院2階 講堂
第3回	11月15日（水）18:30～	市立病院2階 講堂

3 市長への評価報告書提出の開催場所等

日時	場所	内容
11月28日（火）16:00～	市役所5階 第1応接室	委員長、副委員長から副市長へ 評価報告書を提出